

里づくり

人に学び、地域に学び、今できることから始める



厚岸町の景色・自然（提供者：高橋 美佐子さん）

CONTENTS

- 地域づくりリレーインタビュー
北海道大学 地域土着型サークル「いなかっぺ」
- ふる水指導員レポート
厚岸町 高橋美佐子さん
- トピックス

地域づくりリレーインタビュー

北海道大学 地域土着型サークル『いなかっぺ』の皆さん

「超熟アイコジュース 赤い実はじけた」を御存知ですか？
北海道大学総合博物館内にある「ミュージアムショップぼとろ」と「ミュージアムカフェぼらす」で販売されている仁木町産の「アイコ」という品種のミニトマトを使ったトマトジュースで、北海道大学の地域土着型サークル『いなかっぺ』の皆さんが開発し、製造・販売している商品です。
どういった経緯でアイコジュースを販売することになったのか？そもそも地域土着型サークルとはどのようなことをしているのか？『いなかっぺ』の皆さんに伺いました。



●まず、『いなかっぺ』の活動目的や活動内容などについて教えてください。

『いなかっぺ』は田舎で様々な体験や交流をしながら、その魅力を発信することを目的として活動をしています。主な活動は夏企画（後述）と冬企画（石狩市の厚田区ウインターレクフェスタのお手伝い）で、その他には滝川市でお寺体験や、仁木町での新入生歓迎ツアーなどを行っています。

現在、20名ほどが所属していて、道内出身者よりも道外出身者の方が多いです。『いなかっぺ』に入った理由は、「昔から農業に興味があったから」、「夏企画に参加してみたら楽しかったから」、「アイコジュースの開発ができる」と聞いたから、「将来農家になりたいくて」など様々です。

●どのように『いなかっぺ』の立ち上げに至ったのですか？

2012年に、初代代表が、農業派遣のアルバイトで仁木町に行ったことがきっかけです。初代代表は、派遣先の仁木町でミニトマト収穫のアルバイトをしながら農家さんから色々な話を聞いた際に、仁木町の農家さんが労働力不足で困っていて、とりわけミニトマトの収穫がピークを迎える8〜9月に収穫人員を確保することが難しいことを知りました。8〜9月といえば大学生は夏休みのため、農業や田舎に興味がある大学生と労働力不足で困っている農家さんをマッチングさせれば、双方にとって有益なのではないかと考えました。

これを実現させようと翌2013年、初代代表は『いなかっぺ』サークルを立ち上げ、活動を始めました。この仁木町での農業アルバイトは、現在「夏企画」と呼ばれる『いなかっぺ』最大の行事になっています。



↑農業アルバイト中の学生

●夏企画では、どのようなことをしているのですか？

夏企画では、農業や田舎に興味がある学生たちに仁木町の3軒のミニトマト農家さんの所で、農業アルバイトをしてもらいます。アルバイトの内容は、主に「アイコ」という品種のミニトマトの収穫です。学生の参加期間は約2週間、期間中は農家さんからお借りした家に泊まり込み、みんなで共同生活をします。アルバイトする日と休みの日が半々くらいで、休みの日にはサイクリングをしたり、海に潜ったり、地元のお祭りに参加したり、農家さんとバーベキューをしたり：田舎ならではの遊びや地元の人との交流をして過ごします。

夏休み中にこれを計3回実施し、計40〜50人の学生たちが毎年仁木町を訪れています。



↑みんなでテーブルを囲んで晩ご飯

『いなかっぺ』のメンバーも交代で農業アルバイトをしますが、参加してくれる学生をチラシやSNSで募集したり、受入れ農家さんとの日程等の調整、期間中の共同生活のサポートをしたりなど、主に夏企画の運営を担っています。



↑地域のお祭りにも参加

●運営をしていて大変なことはありませんか？

胆振東部地震があった2018年は、参加予定だった学生のキャンセルが相次いでしまいました。その穴を埋めるため、休みの予定だった『いなかっぺ』のメンバーを急遽総動員して対応したのですが、あの時は本当に苦労しました。ただ、本気で仕事に取り組まれている農家さんのところに自分たちはお邪魔させてもらっている立場ですし、『いなかっぺ』なら毎年必ず来てくれると信頼してもらっていると思っています。信頼に応えるための苦労もありますけど、苦

労の先に楽しさや嬉しさがあつて、活動をしていて良かったなと感じます。



↑黙々と規格外品のヘタを外してジュースの下準備

●現在、販売されているアイコジュースについて教えてください。

アイコジュースは、『いなかっぺ』立ち上げ当初も札幌市内の飲食店等に委託販売をしていました。JA新おたるにトマトジュースの加工を委託していたのですが、販売量に対してジュースの製造ロット（1ロット…原料150kg）が大きく、一度、ジュースの加工・販売は中止にしていました。

何とか復活させたいと思っていた時、北海道大学総合博物館を担当する先生から、改修後の博物館に、『NPO法人手と手』が運営する「ミュージアムカフェばらす」が入ることを伺いました。先

生から『NPO法人手と手』の代表を紹介していただき、『いなかっぺ』の活動とジュースの企画について説明しました。手と手の代表の方に、私たちの活動をご理解いただき、ばらすで販売してもらえらるることになりました。

ただ、いきなり大量の販売は見込めなかったため、2016年から2017年までは、ばらすの定休日に、調理場をお借りして、自分たちでジュースを作りました。アイコを煮詰め、瓶に詰め、それをグラスで1杯ずつ販売してもらうことにしました。8〜9月の限定販売でしたが、毎週末、仁木町から規格外のアイコを持って帰り、4〜5時間煮詰め、1週間分のジュースを作っていました。

少しずつ人気が出てきたので、製造量を増やそうと、2018年からは再びJAの加工施設でジュースを加工してもらっています。増産を機にばらすの他に「ミュージアムショップばとろ」でも販売してもらえらるようになりました。



↑大好評のアイコジュース

●アイコジュースの復活までには色々苦勞があつたんですね。

苦勞なのか分かりませんが、どうすれば信用してもらえるか、どうすれば売れるか、どうすれば知名度を上げられるか、アイコジュースを通じて色々な経験をさせてもらっています。

ばらすでの販売をお願いした時、ばらすのオーナーから「学生が気分で作ったりやめたりするような商品は販売できないよ」と言われ、継続して生産できることを条件として提示されました。北大生ということで優遇していただいている部分もあるとは思いますが、毎週末4時間アイコを煮詰め、瓶詰めしている姿を見て、サークルの熱意を信用してもらえたからこそ、その後の増産やぼとろでの販売に繋がったのだと思います。他にも販売価格をどうするかなど、ばらすのオーナーと話をさせてもらう中で商品に責任を持つことや、学生が事業をおこす楽しさなどを学んでいます。



↑手作りで販売していた頃のPOP。当時は自分たちでジュースを作っていたため、食品衛生法等もしっかり勉強しました。

●他に『いなかっぺ』だからこそ得られた経験や入って良かったと思うことはありますか？

夏企画は、農業アルバイトという「労働力の提供」をしているだけなのに、それでも農家さんにすごく感謝してもらえることが嬉しいのです。普段の生活ではほとんど学生としか接することがありませんが、『いなかっぺ』を通じて農家さんと話をする機会が生まれ、関係が深まるにつれて、顔や名前を覚えてくれて、「今年も来てくれたんだね」と声を掛けてもらえることもすごく嬉しいです。また、単なるアルバイト先の農家だけではなく、人生の先輩として色々な話を聞いて勉強させてもらっています。これも、大学生だからこそ出来る貴重な経験だと思います。

また、実際に農家さんが真剣に農作業に向き合っている姿を見て、食べ物を作ってくれている農家さんに対して改めて感謝をしないといけないと思いました。

●今後の目標を教えてください。

まずは、『いなかっぺ』が築いてきた人間関係を今後繋いでいきたいです。また、現在は、ビラ配りやSNS、アイコジュースの販売を通してしか情報発信していませんが、今後は、更なる方法を模索して『いなかっぺ』のことをより広く知ってもらいたいと考えています。

●『いなかっぺ』の皆さん、今後ますますの発展を期待しています。ありがとうございます！

お知らせ

地域土着型サークル『いなかっぺ』が販売する「超熟アイコジュース 赤い実はじけた」は、北海道大学総合博物館内のミュージアムショップぽとろで購入できます。ミュージアムショップぽとろには、通販サイトもありますので、遠方にお住まいの方は、そちらからも購入が可能です

(<http://museumshop.tetote.org/>)。

今年、東京オリンピックが開催される予定だったため、多くの観光客が北海道大学を訪れることを見込み、昨年はたくさんアイコジュースを作ってしまった、在庫が余っています。

無添加・食塩不使用で甘くて飲みやすい一品です。ぜひ御賞味ください。

ちなみに「赤い実はじけた」という商品名ですが、

「熟し過ぎて割れてしまったミニトマトは青果物として販売するには適さないものの濃厚ですごく美味しい。その規格外のアイコの美味しさを知ってもらいたい」

という思いで、初代代表が名付けたそうです。



ふる水事業を活用して、地域住民活動をしてみませんか？

ふる水指導員になって全道で実施される研修を受けてみませんか？

ふる水事業では、過疎化・高齢化の進行が著しい中山間地域等を対象に、地域資源を活用した「地域住民活動」を行う団体の支援（地域活動支援事業）や「地域住民活動」に主体的に取り組む意欲的な人材の育成・交流（研修事業）などを通じて、中山間地域等の活性化に向けた取組を推進しています。

地域活動支援事業

多様な地域資源を発掘・活用して、農地保全や都市農村交流の促進、農産物の高付加価値化などを目指した地域住民による主体的な活動を、道が直接サポートする事業です。これまでサポートしてきた活動には、下記のようなものがあります。

例) 地域食材を活用した食育活動、地域産物を使った加工食品の開発・販売、地域特産物を活用したご当地メニューの開発など

研修事業

地域住民活動に理解と熱意があり、地域住民活動の中心的役割を担える方を、「ふる水指導員」に委嘱しています。

「ふる水指導員」になると、研修会や現地視察で地域活性化事例等を学んだり、指導員同士で情報交換を行ったりする機会に参加できます。（道の規定に沿った旅費を支給します）

研修会等で得た知見をもって、各地域で更に地域住民活動を進め、地域活性化の一翼を担ってください！

ふる水事業について、詳しく知りたい方は、こちらのQRコードからリーフレット・ホームページをご覧ください。



ふる水リーフレット



ふる水ホームページ

新任指導員紹介

前号以降、令和2年1月～6月までで、新たに5名の方を指導員に委嘱しましたので紹介します。2020年6月末現在、全道のふる水指導員数は59名になりました。

ふる水指導員は随時募集中ですので、推薦したい方がいらつしやいましたら、振興局又は農村設計課の担当者まで御一報ください。

岡崎 慶太 さん
(本別町)



建設業とトレーラーハウスレンタル業の「K O Y A. l a b」という会社を営んでおります。
豆の町、十勝本別町で商工会青年部時代には「豆まかナイト」というイベントを立ち上げたり、各団体の皆さんと地域活動をして参りました。
現在は、各団体に属してはいないけれど地域活動に興味のある主婦の方や、働いたばかりの若い方も交えた「ほんべつ☆うきうき未来らぼ」という団体の会長を務めさせて頂いており、今までとは違った目線や方向から地域活動をして参りたいと考えております。
どうぞよろしくお願いたします。

谷口 まどか さん
(本別町)



本別町に5年間在住、現在は札幌市民の管理栄養士、そして本別町友好大使です(´▽`)
“日本一の豆のまち”をもっと盛り上げようと、ヘルシーで“映える！”豆料理の研究とPR活動をライフワークとしており、札幌で本別町のアンテナショップ的役割も担う「豆料理専門C a f e」の開業を目指しております。
農村と都市を繋ぎながら、これからも本別町の「まちづくり」に関わってまいりますので、宜しくお願いいたします！

午来 博 さん
(美幌町)



オホーツク管内、美幌町役場で農業技師として勤務しております午来博と申します。
私は地域農業の活性化を図るため新たな特産品や農業所得向上に繋がる新規作物の調査研究、普及推進に取組んでいます。現在は地域農業の存在価値向上と地域全体への波及効果が期待される農村ツーリズム事業の推進にも取組んでいます。
指導員活動を通して得たものを地域に還元し、自身の成長にも繋げたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

高瀬 徹 さん
(苫前町)



本年、4月より指導員になりました。
41年務めた道職員(農業土木職)から土地改良区職員となつて3年目です。地域活動と農業をいかに結びつけるかを皆様の活動から学び活動へ生かしたいと思っております。
よろしくお願いたします。

福田 怜也 さん
(苫前町)



本年、4月より指導員になりました、苫前土地改良区の福田怜也と申します。
新卒で採用をいただき、土地改良区職員となつて5年目になります。ふる水の活動を通して地域の活性化に貢献したいと考えております。
よろしくお願致します。

ふる水指導員レポート

厚岸町 高橋美佐子さん

「やちっこクラブ」について

釧路から東に40kmほどに位置する厚岸町は、この7月で町制施行120周年を迎えました。

「花と味覚と歴史の街」厚岸町は、春には「あつけし桜、牡蠣まつり」があり、大勢の観光客で賑わいます。初夏を迎えるころ、太平洋が一望できるあやめヶ原に一面あやめが咲き誇ります。このころになるとコンブ漁が始まり、シマエビ漁、さけ漁やさんま漁と続き、秋にはししやも漁が行われます。そして、秋には「あつけし牡蠣まつり」があり、春同様、大勢の観光客で賑わいます。



↑あやめヶ原には、一面にあやめが咲き誇ります。



また、最近では厚岸町内にウイスキーの蒸留所ができました。所長さんにお話を聞く機会があったのですが、海にかかると霧や湿原が、ウイスキー造りに重要な役割を果たしているとのことでした。今年発売された「厚岸ウイスキー サロルンカムイ」は、米国の世界的な酒類品評会で最優秀金賞を受賞しました。厚岸町での大麦の生産にも着手し、オール厚岸のウイスキー製造を目指しているところ です。

私は、コープさっぽろの理事を平成24年に退任した後、ヤマト運輸(株)の営業所で受付をしていましたが、認知症になった母の介護のため退職、しかし、家に引き取ってからわずか4か月で看取ることになりました。母にしてやれなかったことを少しでも何かできないかと、現在は、町内の施設や在宅の高齢者を訪問する介護相談員をしています。

さて、厚岸駅から東へ6km行ったらところに別寒辺牛湿原があります。別寒辺牛

湿原は、8,300haの広さを持ち、そのうち5,277haがラムサール条約に登録されています。別寒辺牛川の本流と支流に沿って細長く発達しており、一度に全域を見渡すことができない広大な湿地です。別寒辺牛湿原の中に厚岸水鳥観察館という厚岸町の施設があり、そこを拠点として活動しているのが「やちっこクラブ」です。

「やちっこクラブ」の「やち」は「谷地(＝湿原)」のことで、「やちっこ」は「湿原の子」という意味です。



↑別寒辺牛湿原には、様々な植物や生き物があります。

厚岸町は、海、汽水湖である厚岸湖、そこに流れ込む別寒辺牛川、そしてそれらを取り囲むように発達している湿原や森林など非常に多様な豊かな自然を持つ町です。「やちっこクラブ」は、次世

代の厚岸町を担う子どもたちが、自然の調査活動を通じて、自然の美しさや不思議さ、大切さを楽しみながら学ぶことを目的としています。

「やちっこクラブ」は、キッズレンジヤー、協力者、サポーター、水鳥観察館職員で構成されています。主役のキッズレンジヤーは、自然に関心のある町内の小学4年生から中学生までが対象で、小学3年生以下でも、保護者が常に同伴することで入会可能です。そして、自然に関心がありキッズレンジヤーのお手伝いなどするサポーター、花やキノコの専門家、カヌーのガイドなどキッズレンジヤーやサポーターを支援・協力する協力者、サポーターや協力者と連携し、「やちっこクラブ事業」の企画・立案・指導をする水鳥観察館職員です。この「やちっこクラブ事業」は、役場が母体となっている事業です。

私は、「やちっこクラブ」ができる前から行われていた、水鳥観察館が主催する月1回の野鳥観察会にまだ小学生だった娘を連れて参加していました。そういった経緯もあり、「やちっこクラブ」ができた平成21年からサポーターとしてお手伝いをさせていただいています。

「やちっこクラブ」は、一年を通して、月1回程度の活動です。春には、新キッズレンジャーの顔合わせをして、本格的に夏鳥が勢ぞろいする6月から、野鳥や植物の観察に出かけます。5年に一度開催される「北海道フラワーズ」にも参加します。フラワーズは、フラワーズオッチングマラソンの略語で、全道各地でどんな花が咲いているか、一斉に調査をするイベントです。



↑別寒辺牛湿原に生育するクシロハナシノブ。

夏や秋には、別寒辺牛川をカヌーで下りながら、湿原にいる野鳥・花・木の実などを観察します。カヌーでの湿原探索では、川に飛び込み対岸に泳いでいく鹿を見たり、カモがカヌーと一緒に移動する姿を見たり、そこできか味わえない感動があります。



↑別寒辺牛川をカヌーで下り、湿原を探索します。

また秋には、北海道大学の厚岸臨海実験所に船を出してもらい、厚岸湾のオオアマモの群生地です。実際に生き物を採集する観察会を実施しています。オオアマモは、北日本の一部にしか分布していません。絶滅が危惧されている海藻です。厚岸湾のオオアマモの群生地には、おいしいシマエビなど貴重な生き物がたくさん生息しているのです。このような厚岸町の豊かな海を守るためには、湿原や森林の保全が必須です。厚岸町では、春に「厚岸町民の森植樹祭」が行われており、毎年、大勢の町民が参加しています。



↑実習船に乗って、海辺の観察をします。

冬になると、オオハクチョウが飛来するので、野鳥観察会を行い、餌を食べている様子などを観察します。野鳥観察会では、オオハクチョウの他、オオワシやオジロワシもたくさん見ることができず。



↑冬の野鳥観察会の様子。

「やちっこクラブ」を卒業して社会人になり、子どもを持つ親になった元キッズレンジャーも出てきました。自分たちが学んだことや感じたことを次の世代へと引き継いでほしいものです。

今年もキッズレンジャーの募集がありました。新型コロナウイルスの影響で、活動を自粛していますが、秋ごろには何かやりたいと水鳥観察館の職員が仰っていました。

今後も安全に活動をするため、人員の確保が必要不可欠ですが、協力者の高齢化、水鳥観察館職員の削減などでリスク管理への負担が大きくなってきています。たくさんの方に「やちっこクラブ」の活動に関心を持ってもらい、サポートになってもらえたら、もっと活動が豊かになることでしょう。



↑野鳥観察会では、オオワシ等も見ることができます。

北海道へお越しの皆さま及び道民の皆さまへ
「**新北海道スタイル**」の実践をお願いします

☆「新北海道スタイル」とは…

新型コロナウイルスとの闘いが長期化している中、国が示した「新しい生活様式」の北海道内での実践に向けて、北海道全体で感染リスクを低減させるために従来のライフスタイルやビジネススタイルを変革させていく取組です。



新北海道スタイル



いまは、
2mをとり



手を洗おう



マスクをしよう



咳やくしゃみを
肘でしよう



3つの「密」を
避けよう



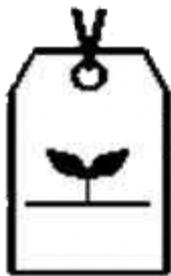
オンラインを
上手に使おう



デリバリーも
上手に使おう



北海道 その先の道へ、北海道
Hokkaido Expanding Horizons



「農たび・北海道」公式 Twitter 開設！

農山漁村で食べた、見つけた、体験したことを、左下のよ
うな#(ハッシュタグ)をつけて投稿してください！

「いいね」や「リツイート」で、皆さんの情報発信と農山漁村
を応援します！

- # 農村ツーリズム
- # 農たび北海道
- # 森たび北海道
- # 浜たび北海道



@notabi_hokkaido

Facebook でも引き続き情報発信中！

農たび・北海道Facebookページはこちら



食べて、泊まって、体験して…

そこにしかない魅力を活かし、

地域が一丸となって観光客を受け入れる農村ツーリズムを

道は「農たび・北海道」の愛称で応援しています。



農 たび
北 海道



森 たび
北 海道



浜 たび
北 海道